

アジアのメディアアートを知る。インドネシアのライフパッチが2月来日！
NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]との連携企画「アジアのメディア・コンシャス」

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）アジアセンターでは、日本を代表するメディアアート専門の文化施設である NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] と協働し、「アジアのメディア・コンシャス」を実施しています。「アジアのメディア・コンシャス」は、日本とアジア諸国の現代の芸術表現におけるメディアテクノロジーの役割、活用法などをテーマに、世界各地で実践されるアーティストやエンジニアの活動を紹介する企画展示です。本展では、インドネシアのジョグジャカルタで2012年に結成されたライフパッチ（Lifepatch）を取り上げます。

ライフパッチは、科学者、プログラマー、デザイナー、アーティスト、キュレーター等の様々な専門性を有する11名のメンバーで構成された、アート、科学、テクノロジーの領域で横断的な活動を行う組織です。彼らは、デジタルテクノロジーを駆使し、社会における問題提起としての実践的芸術表現や、次世代の育成といったプロジェクトを立ちあげ、地域社会におけるテクノロジー、天然資源、人的資源の調査・研究・開発に取り組んでいます。また、ジャカルタ・ビエンナーレをはじめとする美術展ではインスタレーション作品も多数発表。2014年にはオーストリアのメディアアート・フェスティバル「アルス・エレクトロニカ」のデジタル・コミュニティーズ部門で入賞を果たしました。

本展では会期を二期に分け、約半年間にわたり展示やワークショップ、トークイベントなどを通じ、国内で初めて、彼らの活動を総合的に紹介します。2017年2月には、3名のメンバーが来日し、ワークショップやトークイベント等の関連イベントを開催します。

ぜひ貴媒体での本展のご紹介ならびにライフパッチへの取材についてご検討賜れば幸いに存じます。



第一期：「ルマ（家）」：プライベートな空間を使用した集約的実践的展示風景

■展示

「オープン・スペース2016 メディア・コンシャス」連携プロジェクト「アジアのメディア・コンシャス」

ライフパッチ「ルマ（家）とハラマン（庭）」

【会期】 2016年11月1日 - 2017年3月12日（日）11時～18時

【会場】 NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] ギャラリー-B

（東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー4階）

休館日：月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）、年末年始（12/29-1/4）、保守点検日（2/12） 入場無料

■関連イベント（詳細は次ページ以降）

出演：アンドレアス・シアギャン、アグリ・ドノラ、ドリー・フサダ、ヌル・アクバル・アロファトゥラ（ライフパッチ）

2月4日（土）、5日（日） 各日午後2時～5時 ワークショップ

2月11日（土） トークイベント ※特別ゲストあり

主催：国際交流基金アジアセンター、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

国際交流基金アジアセンターウェブサイト： <http://jfca.jp/culture/events/>

展示「ルマ（家）とハラマン（庭）」

本展示企画のタイトルにあるインドネシア語「ルマ（Rumah）」「ハラマン（Halaman）」とは、それぞれ「家」「前庭」を指す言葉だが、ここでは居住のための物理的構造物としてだけでなく、文化的／創造的なアイデアとその実践の基盤と捉えられています。

本展では、展示空間をこの「ルマ（家）」「ハラマン（庭）」になぞらえ、会期中にワークショップ、トークイベントなどの交流イベントを実施し、ライフパッチ（Lifepatch）の様々な実践を紹介します。参加者や来場者との交流を生み出すこの展示空間は、ライフパッチのもうひとつの活動拠点「ルマ（家）」として、また外部へと接続するための「ハラマン（庭）」として機能し、さらには彼らの思考と方法論を体現するインスタレーションへと成長していきます。



第一期：「ルマ（家）」：プライベートな空間を使用した集約的実践展示風景

ライフパッチの活動を体験できる2日間

2017年2月には3名のメンバーが来日し、彼らが実践するワークショッププログラムを行う2日間の特別イベントを開催します。

スマートフォンと簡単な工作で3Dホログラムを生成する装置や、DIYによる電池の製作、電子基盤からシンセサイザーをつくるなど、様々なプログラムを体験できます。さらに、ゲストを招いたトークイベントも実施します。

展示とこれらのイベントを通して、2000年代以降に本格化したインターネット上のプラットフォームや、オープンソースハードウェアの普及といった世界に共通するテクノロジーの民主化の流れと、世界各地で展開される具体的な実践を知ることができます。さらに、参加者や来場者との交流を促すワークショップでは、インドネシアのコミュニティ文化の影響を受ける彼らのDIWO（Do-It-With-Others = みんなでやろう）の精神を体験的に学ぶことができます。



ワークショップ風景（2016年11月、ICC）

※申込方法やゲストなど、最新の情報は、アジアセンターウェブサイト（<http://jf.ac.jp/culture/events/>）をご確認ください。

■ワークショップ

2月4日（土）午後2時～5時 電子楽器製作ワークショップ ※ゲスト：堀尾寛太（アーティスト）

2月5日（日）午後2時～5時 DIYワークショップ

会場：NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] ギャラリーB5

※無料／日英逐次通訳

■トークイベント

2月11日（土） ※特別ゲストあり

会場：NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 4階特設会場

※無料／申込不要／日英同時通訳

●本事業に関するお問い合わせ：国際交流基金アジアセンター文化事業第1チーム（担当：廣田）

Tel：03-5369-6140

●ご取材に関するお問い合わせ：国際交流基金コミュニケーションセンター（担当：伊藤、諏佐）

Tel：03-5369-6089 / Fax：03-5369-6044 / E-mail：press@jpf.go.jp